

令和7年度 自己評価計画書

石川県立羽咋高等学校

重点目標	具体的取り組み	主担当	現 状	評価の観点	達成度判断基準	判定基準	備 考
1 確かな学力と個別最適な学びの推進 ICT機器の活用や授業形態の工夫、観点別評価等の活用により、生徒が主語の授業への改善を図る。	①	教務課	1人1台端末を活用した授業や、ペアまたはグループで話し合う授業は日常的に行われている。しかし、生徒の興味・関心に基づいた主体的な学びへつながる、探究的な学びの実践は、必ずしも多いとは言えない。	【満足度指標】 生徒が探究的な学びを通して興味・関心を高め、主体的に取り組んでいると感じられる授業が実践されている。	授業評価アンケートにおいて、「探究的な学びを通して興味関心が高まり、主体的に取り組もうと思える授業が行われている」という項目に、「よく当てはまる」と答えた生徒の割合が、 A 70%以上 B 60%以上 C 50%以上 D 50%未満	C、Dの場合、改善策を検討する。	年2回の授業評価アンケートで評価する。
	②	進路指導課	令和7年度入試国公立大学合格者は ア：難関10大学・国公立医学科合格者 3名 イ：金沢大学合格者 18名 ウ：国公立大学合格者 合計87名である。	【成果指標】 生徒が高い進路目標を達成している。	ア：難関10大学・国公立医学科合格者3名以上 イ：金沢大学合格者15名以上 ウ：国公立大学合格者80名以上 上記ア～ウのうち達成した項目が A 3項目 B 2項目 C 1項目 D なし	C、Dの場合、改善策を検討する。	年度末に評価する。
	③	進路指導課	平日の家庭学習時間が2時間以上の生徒は、1年生で18%、2年生で21%と少ない。今やるべき適切な学習計画を立て、学習を中心とした生活リズムをうまく構築する力を育てる必要がある。	【成果指標】 1・2年生で平日の家庭学習時間を1時間以上増加した生徒の割合が高まっている。	1・2年生それぞれで、平日の家庭学習時間が1時間以上増加した生徒の割合が、 A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	C、Dの場合、改善策を検討する。	年5回の学習時間調査及び日々の学習時間の記録で判断する。
2 豊かな心の涵養 生徒が主体的に運営する生徒会活動や部活動等を創出するなど、さまざまな活動を通じて生徒に達成感や自尊感情を育む。	①	生徒課	生徒会役員は主体的に行事運営を行っているが、この姿勢を本校生徒全体に広げていき、多くの生徒が達成感や自尊感情を高められるようにする働きかけが必要である。また、部長会議についても定期開催をし、文武両道を達成する支援をしていく必要がある。	【満足度指標】 生徒が達成感や自尊感情を高めることができたと感じている。	生徒会活動や部活動が主体的に取り組める場となっており、達成感や自尊感情が高められたと感じる生徒の割合が、 A 85%以上 B 70%以上 C 55%以上 D 55%未満	C、Dの場合、改善策を検討する。	年2回の学校評価アンケートと羽高祭後にアンケートをとる。
	②	総務課	生徒課と連携し、生徒の主体的な取り組みとして校歌や応援歌の練習は行われているものの、その活動が十分に愛校心の育成につながっているとは言いがたい。式典や儀式において歌詞の意味をしっかりと理解し、気持ちを込めて歌う姿勢を育てたい。	【成果指標】 校歌等をしっかりと歌うことで愛校心が育まれている。	学校評価アンケートにおいて、「校歌等の歌唱を通して、愛校心がより育まれた」という項目に、「よく当てはまる」と答えた生徒の割合が、 A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	C、Dの場合、改善策を検討する。	年2回の学校評価アンケートで現状を把握する。
	③	生徒課	自己の何気ない行動がインターネット上のトラブルを引き起こす可能性に対する意識が十分でない生徒も多いため、教員全体で継続的に指導していくことが求められる。	【成果指標】 スマートフォン等によるインターネットトラブルに対する、安全・予防対策を実践している生徒の割合が高まっている。	学校評価アンケートにおいて、「スマートフォン等によるインターネットトラブルに対する安全・予防対策を、十分に実践している」という項目に、「よく当てはまる」と答えた生徒の割合が、 A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	C、Dの場合、改善策を検討する。	年2回の学校評価アンケートで現状を把握する。
3 課題発見力・解決力の育成 DXハイスクール採択校・STEAM教育推進事業モデル校として、DX探究未来塾（総合的な探究の時間等）での活動を通して、地域社会の問題発見や改善に取り組む。	①	探究課	本校は、DXハイスクール採択校およびSTEAM教育推進事業モデル校として、昨年度は地域探究トライアルキャンプやアプリ開発講座などの新たな取り組みを展開した。今年度の入学生からは、1・2年生での授業が週2時間（従来は週1時間）に拡充されることから、取り組みのさらなる充実と計画的な実施が求められる。	【努力指標】 生徒が自ら課題を設定し、解決に向けて主体的に取り組む姿勢を育てるとともに、様々なコンテストや発表会への積極的な参加を促していく。	校外主催のコンテストや発表会に参加した件数が、 A 60件以上 B 40件以上 C 20件以上 D 20件未満	C、Dの場合、改善策を検討する。	年度末に評価する。

令和7年度 自己評価計画書

石川県立羽咋高等学校

重点目標	具体的取り組み	主担当	現 状	評価の観点	達成度判断基準	判定基準	備 考
4 教職員の多忙化改善 学年・分掌業務の平準化や業務の精選により時間外勤務の削減を図る。	① ・教員の業務の適切な配分 ・業務の重複や無駄の削減 ・ICTを活用した教員間での情報共有や連携の強化	教頭	令和6年度の月平均の時間外勤務時間は42.6時間であり、一昨年度（40.4時間）、昨年度（38.9時間）と比較して増加傾向にある。	【成果指標】 教職員全員が多忙化改善に向けた取り組みを実施し、時間外勤務時間を減らす。	教員の時間外勤務時間調査において、月平均の時間外勤務時間が A 35時間以下 B 35～40時間 C 40～45時間 D 45時間超	C、Dの場合、改善策を検討する。	職員の勤務時間調査で判断する。
5 防災への備えを高める 学校安全総合支援事業（災害安全）の推進校（拠点校）として、災害対応力の強化に取り組む。	・防災教育計画の立案 ・学校防災アドバイザー派遣事業の実施 ・生徒向け、教職員向けの研修の実施	総務課	毎年避難訓練を行ってはいるが、実際の災害を想定した実践的な訓練になっていないので、緊急時の災害対応力に不安がある。専門家による指導や助言が求められる。	【成果指標】 教員・生徒が災害対応力が以前より高まったと感じている。	防災教育事後アンケートにおいて、教員・生徒ともに「災害対応力が以前より高まった」という項目に、「よく当てはまる」と答えた生徒の割合が、 A 90%以上 B 85%以上 C 80%以上 D 80%未満	C、Dの場合、改善策を検討する。	年3回の防災教育事後アンケートで評価する。